

令和4年度

県営都市公園 外部評価結果報告書

令和5年3月

静岡県都市公園懇話会 外部評価委員会

外部評価の対象とする県営都市公園

区分	面積 (ha)	供用開始日	指定管理者
静岡県草薙総合運動場	26.4	S38.4.16	東京ドーム・東急・静鉄共同事業体
遠州灘海浜公園	20.3	S63.10.9	天龍造園建設グループ
愛鷹広域公園	19.4	H1.7.16	あしたかスポーツ&ネイチャーパートナーズ
静岡県富士山こどもの国	94.5	H11.4.26	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)
小笠山総合運動公園	269.7	H13.5.10	静岡県サッカー協会グループ
吉田公園	14.3	H13.8.1	特定非営利活動法人しずかちゃん
浜名湖ガーデンパーク	34.6	H17.6.5	浜名湖えんてつグループ

目次

外部評価の実施

令和4年度 実施内容

令和4年度 7公園9段階評価ポイント

- 1 静岡県草薙総合運動場
- 2 遠州灘海浜公園
- 3 愛鷹広域公園
- 4 静岡県富士山こどもの国
- 5 小笠山総合運動公園
- 6 吉田公園
- 7 浜名湖ガーデンパーク

外部評価の実施

静岡県では、都市公園の指定管理者制度への移行に当たり、指定管理者の業務状況を確認するだけでなく、業務自体が公園の設置目的の達成に貢献しているかを客観的に評価するため、平成17年度から外部評価制度を導入している。

評価は、業務の実施内容を評価する管理運営評価(一次評価)と、公園の公益性や設置目的との適合性の評価(二次評価)の二段階で行った。

一次評価では公園の目的、業務体系を表したパークマネジメントカルテに基づき、事業者の自己評価、来園者アンケート、県による事業診断を行った。

二次評価では、一次評価結果データや現地視察の結果に基づき、外部有識者(静岡県都市公園懇話会委員)が意見交換し、設置目的の内容を機能別に分類した項目ごとに「Aプラス」から「Cマイナス」までの9段階評価と文章により総合判定した。今後、指摘された具体的な改善点などに基づき、指定管理者の管理運営の内容の向上に活用していく。

令和4年度 実施内容

区分	実施内容	説明	実施時期
I	パークマネジメントカルテ	設置目的から個別業務内容までを構造的に示した作戦体系図を作成し、業務ごとに年間目標値を定めた。	令和4年6月
II	外部評価アンケート	公園の基礎的な管理項目と来園目的に対する満足度を5段階で調査した。県営7公園の利用者を公園現地で無作為抽出し、対面式・回収式で調査した。	春・秋
III	一次評価	パークマネジメントカルテの実績、外部評価アンケート、職員モニタリングを基に、評価基準に従い客観的に数値付けした。	10月～11月
IV	公園現地視察・指定管理者へのヒアリング	外部評価委員による現地視察及び指定管理者へのヒアリングを実施した。	10月～11月
V	二次評価	I～IIIのデータに、県営7公園の公益性や設置目的との適合性に関する外部評価委員の知見を加えるとともに、委員による公園の視察結果を基に評価を総括した。	令和4年12月～令和5年3月

(参考) 9段階評価ポイントの意味

記号	意味	その他
A	十分満足できる	心象としてABCに対し上回るか下回るかにより、必要に応じ、+、-の付加記号を付ける。
B	概ね満足できる	
C	努力を要する	

令和4年度 県営都市公園の9段階評価ポイント

評価ポイント

静岡県草薙総合運動場

R 3

R 4

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての役割強化	A-	A
	B 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A	A
	C 地域との連携・協働	A-	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	B+	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A-	A

遠州灘海浜公園

R 3

R 4

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A スポーツに親しむ場の提供	A-	A
	B 自然に学ぶ場の提供	A+	A+
	C 地域利用の場の提供	A	B+
	D 地域との連携・協働	A	A-
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	B+
	F 公園の魅力の広報	A+	B+
	G 収益向上への取組	A-	A-
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A	A-

愛鷹広域公園

R 3

R 4

評価の総括		B+	A-
機能別評価	A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施	A-	A+
	B 自然と親しむ場の提供	A-	A-
	C 地域との連携・協働	B	B+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B+	A-
	E 公園の魅力の広報	A-	A-
	F 収益向上への取組	B+	A-
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A	A

静岡県富士山こどもの国

R 3

R 4

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供	A	A
	B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供	A+	A
	C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供	A	A
	D 地域との連携・協働	B+	A
	E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A-
	F 公園の魅力の広報	B+	B+
	G 収益向上への取組	A-	A
	H 安全・安心で快適な施設の提供	A+	A

小笠山総合運動公園

R 3

R 4

評価の総括		A	A
機能別評価	A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）	A	A+
	B 地域利用・多目的利用の推進	A	A
	C 地域・企業との連携・協働	A+	A+
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A	A+
	E 公園の魅力の広報	A	A+
	F 収益向上への取組	A+	A
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A+	A+

吉田公園

R 3

R 4

評価の総括		A-	A-
機能別評価	A 花や緑に親しむ機会の提供	A	A
	B 地域住民の利用促進	A	A
	C 地域との連携・協働	A	A-
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	B-	B
	E 公園の魅力の広報	B+	B+
	F 収益向上への取組	B+	B
	G 安全・安心で快適な施設の提供	A+	A

浜名湖ガーデンパーク

R 3

R 4

評価の総括		B+	A
機能別評価	A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供	A	A+
	B 多様なレクリエーションの場の提供	C+	A+
	C 地域との連携・協働	A-	A
	D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供	A-	A-
	E 公園の魅力の広報	A	A
	F 収益向上への取組	B+	A
	G 安全・全安心で快適な施設の提供	B+	A

1 静岡県草薙総合運動場

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

長期的に継続しているコロナ禍の影響により、今年度の本施設の利用者数は目標には到達していない（中間目標 560,350 人、中間実績 439,369 人）。しかしながら、昨年度の年間利用者数（年間目標 920,000 人、年間実績 746,315 人）、一昨年度の利用者数（年間目標 940,000 人、年間実績 563,776 人）との比較検討から、利用者数はコロナ禍以前の水準に近づいている。今年度も新型コロナウイルスの第7波、第8波という感染拡大の時期がみられたものの、プロ野球公式戦、海外のチームを招待しての国際ユースサッカー大会、草薙夏祭りなどの多くのイベントを開催できたことは高く評価できる。そのような背景として当初の予定より数多くの打合せが開催されているが、新型コロナウイルスの感染状況に合わせた綿密な対策が協議され、無事にイベントが開催された一助になっていたと思われる。

また、各種スポーツの県大会やマスターズ、パラ陸上大会など年齢や障害の有無にかかわらず、多くの県民が本施設でのスポーツ大会に参加していた。さらに、従来からある自主事業は、例年同様に利用者の人数、満足度も高く、健康増進の観点からも多くの県民に寄与している。フリーパス会員数も高い水準を維持しており、このように多くの利用者のニーズに応えられている主要な要因の一つとして、アンケートを実施し、利用者の「声」に対応している点が挙げられる。今年度実施されたテニスコートの外壁修繕や複数のトイレの洋式化もアンケートによる利用者からの要望に応えたものであった。

他にもイベント時の駐車場混雑状況を SNS で公開するなど、イベント時の課題に対応したサービスを展開したり、各種施設の無料開放も数多く実施されており、新規利用者の獲得に関しても積極的に取り組んでいる。

運動施設で発生する事故はいくつかのヒューマンエラーが重複して発生することが多いが、日常点検に関するデジタル化が導入されたことは安全管理の側面から非常に有効であり、今後とも充実させてもらいたい。今年度は、静岡市周辺で発生した集中豪雨により、停電・断水が発生した近隣住民にシャワー施設を開放した。今後もこのような災害が定期的に発生する可能性は否定できず、次年度以降も本施設で対応可能な災害対策を準備する必要があると考えられる。

● 改善事項

現地視察、及び各種資料から抽出された本施設の次年度以降の改善事項として以下の5点が考えられる。

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の予防に引き続き努めること。
- ② SNS の更新頻度向上に取り組むこと。
- ③ 継続して、駐車場利用の利便性を高めるよう努めること。
- ④ 施設の老朽化に関する外観の劣化を緩和するため、対応する修繕・メンテナンスを実施すること。
- ⑤ 自然災害等の緊急時に対する対策・準備を行うこと

● 機能別の評価

A 多様なスポーツニーズに対応する施設としての役割強化

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルスの感染拡大により制限のある日常生活が3年を超えようとしている中で、多くの人々がウイルスとの共存に取り組んでいる。本施設においても同様に、コロナ禍当初は施設利用停止やイベントの中止により、利用者のニーズに対応することが不可能な時期が長く続いた。今年度もコロナ禍は継続しているが、感染対策をはじめとする様々な工夫により以前の状況に戻つつあることは高く評価できる。特に昨年度から今年度の間の実績を見ても、プロ野球公式戦が当初の目標以上の試合数を開催し、海外のチームを招待しての国際ユースサッカー大会を再び開催できたことは高く評価できる。そのような背景として当初の予定より数多くの打合せが開催されているが、新型コロナウイルスの感染状況に合わせた綿密な対策が協議されていたことがうかがわれ、無事にこれらのスポーツイベントが開催された一助になっていたことが推察できる。このようなトップレベルのイベントに限らず、各種スポーツの県大会やマスターズ、パラ陸上大会や車いすバスケットボール大会など、年齢や障害の有無にかかわらず多くの県民が本施設での大会に参加していたことは好ましい状況であり、今後も充実させてもらいたい点である。加えて、従来からある本施設での自主事業は例年同様に利用者の人数、満足度も高い。親子教室や健康体操などは気軽にスポーツに親しみ、健康増進の観点からも多くの県民に貢献していると考えられ、今後も質の高いサービスの提供を期待したい。

B 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

コロナ禍であるにもかかわらず、目標としている以上の文化イベントが数多く実施されていることは高く評価できる。特に新型コロナウイルスの感染拡大が始まってからは開催することのできなかつた草薙夏祭りの開催は、これまでの感染対策や配慮の経験を活かした成果であり、来年以降の定期的な開催を期待させる。色彩緑地整備の一環として実施した花壇の植え替えやプランターの設置は、公園づくりの活動を通じた住民同士の交流を可能にしたであろう。ミストシャワーやペットボトルイルミネーションなど本施設の広大な空間を活用したイベントも今後の継続が望まれる。ランニングや卓球、水泳などレクリエーションを主目的としたイベントも当初の目標数よりも多く開催され、フィットネスのみならず、このようなイベントを通じた県民同士の交流活動も心身の健康に寄与している。スマートフォン等の機器を活用して科学的にスポーツに取り組む利用者は今後増加していくことが予想される。今年度実施された動体視力トレーニングの測定記録会など、科学的な知見を取り入れた新規のイベントの企画も今後検討してもらいたい。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕 A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

近隣のこども園の園児らが、花いっぱい運動として花壇の整備を行ったり、ボランティアを募って公園内の清掃に協力してもらうなど、ボランティア活動と公園運営を円滑に組み合わせた取り組みが行われた。ほぼ目標通りの回数が実施されており、このような活動は地域住民に

公園への理解を深めてもらう活動になりえるので継続されていくことが望ましい。近年は SNS などインターネット上での情報周知が一般的になっているが、本施設は高齢の利用者も多いため、静岡鉄道など地元の企業と連携して草薙通信やプロ野球チラス等紙媒体での情報発信に取り組んでいることも評価できる。大学生のバスケットボール・バレーボールなどの教室へのアシスタントコーチ派遣、地元児童館と連携してキッズレッスンを実施するなど、行政・教育機関、周辺施設と連携した取り組みもなされている。本施設は住宅街の中にあり、イベント時には渋滞・駐車場に関する問題がしばしば発生するため、パークアンドライドの推進はこれらの問題解決に寄与していくことが期待される。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

トレーニング場の利用者やフリーパス会員数も従来通り高い水準を維持しており、利用者ニーズをよく踏まえた現状が推察できる。このように多くの利用者のニーズに応えられている主要な要因の一つとして、複数回の利用者へのアンケートを実施し、利用者からの「声」に対応している点があげられる。今年度はテニスコートの外壁修繕も行われていたが、これも利用者が強く希望していたポイントに沿ったものであり、限られた改修の予算を有効に活用していると感じられた。また、トイレの洋式化も進んでおり、これもアンケートの回答を踏まえた箇所からなされていた。また、イベント時の駐車場混雑状況を SNS で公開するなど従来の利用者への新しいサービスを展開したり、各種施設の無料開放も数多く実施されており、新規利用者の獲得に関しても積極的に取り組み、住民の様々なニーズに応えようとしている姿勢が感じられる。

E 公園の魅力の広報

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

HP の更新や新規 SNS 開設、SNS フォロワー数の増加等、当初の目標より大きく成果を上げている。加えて広報誌への掲載や広報の配布等、インターネット以外でも公園の魅力を発信している。あえて、一段階高い要求をするならば、もう少し高い頻度で SNS を更新することを提案したい。SNS を毎日のように更新し、情報発信をしている民間企業も多いため、更なる更新頻度を求める利用者が潜在的に多くいる可能性は十分に考えられる。数多く行われている自主事業を題材にするなどして、更なる広報活動の充実を期待したい。

F 収益向上への取組

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

水泳、テニス、フットサル、陸上競技などの多様な自主事業、フリーパスを利用してトレーニング室や陸上施設等の複数の施設を個人で活用する利用者など、多様なニーズに対応して会員数を安定的に確保している。これは、本施設の重要な収益の要因となっているので今後も質の維持・向上をお願いしたい。エネルギー原料をはじめとする近々に生じている物価の高騰は、今後もその動向が不透明なため、空調設備の省エネ化は現実的かつ有効な経費削減につながる。他にも暖房便座の切替え等、現在行っている経費削減対策に加え、可能な限りの経費削減に取

り組んでいただきたい。

G 安全安心で快適な施設の提供

[9 段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

長期にわたるコロナ禍の中で数多くの自主事業やイベントを開催しているが、クラスター等の発生がないことは日常の感染対策が効果を発揮していると思われ、高く評価したい。以前はプールの周辺地面にひび割れ等の破損箇所がみられたり、野球場の老朽化が外観から強く感じられていたが、修繕工事やスタンドのメンテナンスを行い、県民が快適に利用できるような努力がみられる。本施設のような運動施設で発生する事故はいくつかのヒューマンエラーが重複して発生することが多い。そのような視点から考えると、今年度から日常点検に関するデジタル化が導入されたことは安全管理の側面から非常に有効であり、今後も推進していきたいところである。今年度の9月に静岡市周辺で発生した集中豪雨により、停電・断水した世帯の地域住民にシャワー施設を開放した。今後もこのような災害は定期的に発生する可能性は否定できず、次年度以降も本施設で対応可能な災害対策を準備する必要があると考えられる。

2 遠州灘海浜公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、新型コロナウイルスの影響が残りつつも、新型コロナ禍の収束の兆しが見え始めた。公園利用者数は、中間目標 30,000 人に対して中間実績は 37,354 人（125%）と目標を上回り、また昨年度の中間実績 22,825 人からは 6 割増であり、回復傾向が見て取れ喜ばしく思う。

公園の機能別に見ると、利用者サービス、広報・情報発信、安全・安心・快適な施設提供など管理運営面では諸業務について目標通り着実に取り組みが行われ、スポーツに親しむ、自然に学ぶ、地域利用など利用面では総じて目標を大きく上回る実績が達せられており、指定管理者の相応の努力が認められるところである。

ただ、当初新型コロナ禍の先行きに不透明感が漂うなか、利用面では目標数値を引き下げた経緯もあり（例えば令和元年度と比較して、令和 4 年度のサッカー、ラグビー大会に参加者数中間目標は 50%、地域利用の参加者数中間目標は 30%程度など）、新型コロナ情勢に明るさが見え始めたことを勘案すると、実績評価については割り引いて考える必要もあるだろう。

利用者アンケートの総合満足度を見ると 4.41 と前年（4.55）よりやや低下しているのが気掛かりである。運営側の対応に特段の変更は見られないなか、新型コロナ禍等を経て利用者側のニーズが変化してきた可能性が考えられる。また、施設別、目的別の利用満足度を見ていくと、トイレ清掃、職員の対応について、他公園の満足度数値と比較して総じてやや低めであるところは課題かもしれない。

今後、新型コロナ禍の収束が見通せるなか、この機会に公園利用の回復に向けて、そして利用者満足度の改善に向けて、指定管理者においては現状のレビューも踏まえ、各種取り組みへの創意工夫を期待したいところである。既にスポーツ大会、スポーツ教室利用では新たな広がり、可能性が見え始めている。緑地空間の提供や企業 CSR 等地域との連携・協働、イベント、プログラム等自主事業の新展開、そして遊具類の充実なども視野に入れてほしいところである。利用者サービスや広報・情報発信にも新機軸の検討も期待したいところである。

● 改善事項

新型コロナ禍収束後に向けて、社会環境や利用者ニーズの変化も視野に入れ、県営遠州灘海浜公園の資源を再確認し、遠州灘海浜公園のあり方や総合的な管理運営システムについて、機会を見て中期的に調査検討を進めていただきたい。

短期的には、以下の諸項目についての検討・実施が課題になるだろう。

- ① 隣接した公園との利用面での連携や市内企業・施設との連携によるプログラムの企画・運営（公園利用の可能性探究や魅力化）など、また広報プロモーションの推進等含め、引き続いで地域連携の開拓・推進する。
- ② 利用者ニーズも踏まえた利用者サービスの質的向上について検討・推進する。特にトイレ維持管理と職員サービス等については現状レビューを踏まえ速やかな対応を期待したい。ニーズ把握には直接公園利用者の声を聞くような機会を設けるのも一法かもしれない。
- ③ 新規サイクル導入・修理など進められているが、親子連れ利用の多いサイクル広場、遊具広場の充実を引き続き検討・推進する。サイクル更新に加え、ブランコ、アスレチック関係の設置検討、快適なトイレ、職員サービスなども課題である。

施設の老朽化や他施設・団体・企業等との連携の根幹に関しては、公園設置者である県とも

協議・連携しつつ改善への取り組みを進めてほしい。

● 機能別の評価

A スポーツに親しむ場の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

大会は開催数、参加人数とも目標を大きく上回る実績を挙げている（中間実績での開催数で約3割増、参加人数では5割以上増）。また、教室については開催数は目標通り（中間で12回）であるが、参加者数は目標を4割近く上回る。総じて目標を上回る実績となっており、新型コロナ禍の一般感の影響もあると思うが、指定管理者の営業・運営努力の賜と評価したい。内容的にも大会関係ではベトナムサッカーチームの強化合宿の誘致、教室関係では従前よりのノルディックウォークに加え、新たにタグラグビー講習会の誘致、その他に地元女子サッカーチームの活躍などもあり、施設利用の幅の広がりも見え始めている。中間実績からはスポーツ利用について回復基調はうかがえるが、目標値は新型コロナ禍の動静を鑑み、昨年度、今年度と引き下げられてきた経緯もあり、今期の目標対比での実績数値の読み方には注意も必要となる。

B 自然に学ぶ場の提供

[9段階評価] **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野鳥観察会、こども自然楽校等の参加人数は中間実績で目標値を上回っており、所定の成果を挙げていると評価できる。振り返ると、新型コロナ禍にあっても子どもたちの自然を学ぶ場への参加者数の落ち込みはさほどではなく（スポーツ大会、スポーツ教室と比べて相対的に）、これらへの利用ニーズは底堅いものと推察できる。既に新型コロナ禍以前に近い利用水準に届いているが、今後新型コロナ禍の収束も見込まれるなか、公園の特性を活かし、利用者ニーズにも応えられるよう関連プログラムの企画・運営の積極化を期待したい。

C 地域利用の場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

緑地空間（自然生態観察園等利用）の提供、スポーツ以外の地域イベントとも、利用者数は中間目標を大きく上回っており、所定の成果を挙げていると評価できる（前者は3割増、後者は6割増）。後者では、集客力のあるフリーマーケット、ドッグフェス、秋まつりが開催されたことが大きく、新型コロナ情勢を踏まえた指定管理者の運営努力に支えられていると思われるが、新型コロナ禍収束に向けた明るい兆しである。一方、前者については、目標人数は上回っているものの、グラウンドゴルフ利用団体の減少などもあって提供回数では目標を下回っており、利用人数も新型コロナ禍にあった昨年度、一昨年度の実勢に届かないのが気に掛かる。自然生態観察園、観察広場の利用満足度の低下もうかがえることから、利用動向の分析等も踏まえ、引き続き利用促進への検討を期待したい。

D 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

清掃ボランティアの参加、周辺施設等（近隣学校等）との連携は、障がい者施設等の就労体験や近隣中高の職業体験の利用増もあり、回数・人数とも目標を上回る実績を残しており、指定管理者の運営努力を評価できる。これら活動の過去2年間の変化を見ると、新型コロナ禍による落ち込みから回復基調にある様子がうかがえる。ただ、新型コロナ禍以前との比較では連携・協働のボリュームが戻りつつあるとは言い難く、今後新型コロナ禍の収束が見込まれるなか、引き続き連携・協働の新しい形（項目記載のある企業CSRとの連携等）も模索しつつ、学校・団体・企業・自治体への積極的な働きかけを期待したい。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、利用者ニーズの把握（アンケート）、利用者の利便性向上（売店、自販機の売上）、福祉サポート（車いす）とも、おおむね目標数値を達しており、数値的には適切な管理・運営がなされてきたと考えられる。売店等の売上金額は新型コロナ禍前に近づいており、公園利用者数の回復傾向を裏づけている。アンケート結果で施設別満足度に目をやると、前年比で観察広場の低下（4.3→3.7）が目立つ。各施設にわたり、トイレ清掃と職員サービスについては満足度が低めの評価が散見される。指定管理者においては、これら結果について分析・検討のうえ、公園利用全体へのサービス向上に活かされたいと思う。

F 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

イベントカレンダー等の配布では目標を上回り、新聞・テレビでの情報提供、SNSでの情報発信もおおむね目標を達しており、指定管理者における広報・情報発信は着実に実施されていると評価できる。ただ、利用者アンケートでは、HP・マスコミ等情報発信の満足度に変化は見られず、昨年同様他公園に比してもやや低めであるなど、成果については十分とは言い難い面も感じられるところである。現在大河ドラマの影響もあり浜松への注目度は高まっているなか、従前よりの日常的な広報・情報発信に加え、今後は他施設、市内企業等との連携も視野に、戦略的広報の取り組みの積極化や、野鳥、植生等公園の自然資源を活用したより広域的な情報発信への工夫も期待したい。

G 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、経費節減及び自主事業による利益還元で目標を大きく上回る実績を挙げており、指定管理者の運営努力の跡がうかがえる（いずれも中間目標対比で約2.5倍の実績）。た

だ、過年度との比較では、新型コロナ禍での利用低迷のなか目標値を引き下げてきた経緯もあり、公園利用者数の増加に照らしても自主事業収入増はさほど大きいとは言えず、実績数値の読み方には注意が必要である。今後新型コロナ禍の収束により利用増が見込まれるなか、自主事業に関しては自販機収入増に加えて収益面でも寄与するイベント誘致や各種プログラム導入など期待したい。また、利用者サービス向上につながる売店機能の充実等も期待したいところである。

H 安全・安心で快適な施設の提供

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

中間実績では、全ての関係項目で昨年同様に目標通りの実績が達せられており、十分に満足できる管理運営の取り組みがなされていると評価できる。それら成果を利用者アンケートで見ると、全体的には昨年同様比較的高い満足度が得られており、日常的な点検・清掃の成果が現れていると考えてよいだろう。ただ、施設別に見ると、自然生態観察園、観察広場の満足度ではやや低下傾向がうかがえるなど、気掛かりな面もあり、状況・要因の分析・検討を行い、安心・安全・快適な施設の管理・運営に活かしてほしい。また、遊具類の使いやすさや安心度への満足度は高めである一方で、遊具類の充実を求める声も少なくなく（ブランコ、アスレチック関係等）、サービス向上との兼ね合いから新たな遊具類整備の検討も必要だろう。トイレ清掃に関しては、運営側の取り組みに反して、利用者の満足度はなおやや低めであり、施設老朽化によるやむを得ない要因もあると思われるが、引き続き改善への検討・対応に努めてほしい。

3 愛鷹広域公園

● 評価の総括

[9 段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

指定管理者となり 1 年目の昨年度はコロナ禍での活動規制や自粛などの影響を大きく受けたが、2 年目の今年度はウィズコロナの日常を受容しつつ、その中でスポーツや自然環境を楽しむ人々の意識も高まりつつある状況下、指定管理者の得意分野であるスポーツ面での新たな取り組みが積極的に実現されていることを高く評価したい。中間実績（9/30 時点）では公園利用者目標数も上回り、陸上、サッカー、野球大会の誘致数も目標の 2 倍強に達している。加えて、地域の子供、大人向けの運動プログラムも増加しており、特に大人向けのプログラムやイベントは目標値の 15 倍近くに達しており、その活発な活動実績は特筆に値する。また、今年に入りオリンピック・アスリートを招いた陸上クリニックや現役のプロ野球選手を招へいした野球教室も実現している。

アンケート結果による利用者満足度は昨年度の 4.39 から 4.27（目標値は 4.4）となっている。回答者数の年齢で偏りがあり（10-20 代少ない）、平均的な結果とはいえないとも考えるが、アンケートでは昨年が続いて芝生の整備や運動用器具、ベンチなどの修繕を求める声も散見される。については、グラウンドの使用頻度と維持管理とのベストなバランスをとりつつ、スケジューリングを検討して良好な状態で供することが必要である。指定管理者によるベンチや看板、小規模な運動器具や照明器具の修繕も自助努力で細やかに対応されているが、水害時の浸水、照明、エアコンの改善など大規模なものは県と長期的な計画を検討する必要があるだろう。

また、「県東部を代表するスポーツの拠点として、また、自然と親しむ場としての公園運営を目指す。」という公園の設置目的に向けて、視察時の感想としては、従来通りスポーツ施設と自然環境がバランスよく一体化した維持管理が実施されていると評価した。ホテルまつりや桜のライトアップ、地域と連携した花壇づくりなど、自然豊かな公園環境を活かしたイベントも実施されており、施設全般の良好な管理・運営に努力を重ねている。

昨年度の外部評価の中でも指摘されていた、「主体的に参加してくれるボランティア支援と地域連携」という点では、すでにボランティア・コーディネーターを決定して、活動計画を作成し始動しつつあるということで、今後活動のリーダーとしてボランティアの増加や活動拡大に繋がり、地域連携をより深める重要な存在として育ってくれることを期待したい。

● 改善事項

・ターフやピッチ状態の更に良好な状態を保つ必要

総括でも触れたが、ターフやピッチ状態は定期的な調査点検では高い評価を得ていることは評価したい。一方で、日常的な芝の状態を改善する利用者の声が多く見られる。稼働率が非常

に高い状況で使用頻度と維持管理とのバランスを取るとはむずかしいが、利用者から損傷箇所や感想をヒアリングしつつ、効率的に補修作業を進め、更に良好な状態で供することが求められる。

・ 交通アクセスの多様化を検討する必要

指定管理者へのヒアリングから、大型イベント時には駐車場の不足が課題として挙げられ、その際は周辺の免許センターに依頼しているとのこと。実際にアンケート結果でも 85.0 パーセントが自家用車で来園している。バスも平日 3 往復、土日は以前よりは増便しているが、8 往復と限られている。イベント時には主催者にバス運行も依頼しているということだったが、なかなか実現していない。そこで、大規模イベントの際には主催者（指定管理者との協議で）が最寄りの駅からのシャトルバスを提供してもらうことも検討されたい。公園の立地からしてむずかしい課題ではあるが、東部広域圏からの来場者の利便性（電車+バスの利用促進）や SDGs の観点からも、もう少し多様なアクセスの可能性を探る必要があると考える。

● 機能別の評価

A 県東部地域のスポーツ振興のための大会・イベントの実施

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

東部広域圏のスポーツの拠点として例年開催されてきた、高校野球（春、夏）、東部陸上選手権、沼津市陸上選手権、天皇杯、高校総体、U15 中学生県大会、静岡学生選手権、社会人クラブ選手権、サッカー東部女子大会などの大規模緒競技会に加えて、高円宮プレミアリーグ（サッカー）、全日本一輪車競技大会などを新規、再誘致することで、目標値の 2 倍強の開催を実現しており、高く評価する。

また運動教室、ヨガ、ピラティス、あしたか歩コース、ランニング、ストレッチ、ノルディック、フィットネス、長距離記録会、大人のサッカースクールなど、大人向けの運動プログラムを積極的に実施しており、そのプログラム数は目標値の 15 倍にも迫っており、充実したスポーツサポートサービスとして、地域の人々に根づいていることが理解できる。また沼津かのがわマラソンの直前のランニング講習を開催し、これはタイムリーな地域と連動したイベントであり、これからも地域のニーズに応えつつ多様な取り組みを継続してほしい。

また指定管理者の強みを活かした活動も広がっている。あしたかミズノキッズクラブ（陸上、サッカー、野球、テニス、卓球、ヘキサロン）による子供向けスポーツ教室の開講に加え、今年に入りオリンピック・アスリートを招いた陸上クリニックや現役のプロ野球選手を招へいした野球教室も実施して、それぞれ広域圏から 100 人以上の参加者が集結した。このような貴重なアスリートと出会えた子供たちから、「またやってほしい」という声が多く挙がったということで、高く評価する。引き続きこのような機会を提供してほしい。

B 自然と親しむ場の提供

[9 段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

大きく成長した桜並木や静かな佇まいを見せるせせらぎの小径をはじめとして、ネモフィラの花壇なども加わり、季節の変化を感じられる自然豊かな環境を年々充実化しており、毎日散策に訪れる常連も多い。また更なる充実化のためにも植栽計画に基づく剪定や枝整理などを適切に実施してほしい。

また公園全体を巡る3コースのウォーキングマップを配布したり、鬼ごっこオリエンテーリングをセットで実施するイベントを開催して、公園全体を舞台にスポーツと自然を遊びながらを体験できる工夫も行っており、指定管理者のサービス提供の賜と評価したい。体組成や足型など測定会は上期は台風の影響で実施できず、1月に実施された。引き続き自然環境の中で健康促進に結びつくイベントの開催に向けて努力してほしい。

加えて、公園の自然豊かな環境を広く発信して、理解を深めるための環境教室は目標に及ばなかったのも、是非力を入れてほしい、せせらぎの小径を活用したホタルの観察会と連動した環境教室なども有効であると考えます。

C 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

ホームページ上でボランティア募集の告知をし、またチラシを配布してボランティアの人材確保に努めている、また今年度はこれまで課題となっていたボランティア・コーディネーターとして、樹木、植栽の専門的知識を有する方が決まり、現在ボランティアの体験会の実施を準備中とのことで、今後のボランティア活動の広がりや地域との連携が更に深化することを期待したい。

加えて、地域と協力して花を植える活動は、コロナ禍の制限の中でも、以前からの繋がりを大切にして、継続的に行われており評価したい。沼津市、沼津特別支援学校、アスクラロ沼津、沼津ドリームアカデミア、T-Dream（中学生女子サッカー）など、行政、学校、企業、地域のスポーツクラブとの多様な協働が実施されている。また、あしたかキッズクラブの子供と家族が参加した花壇づくりなど、新たな取り組みも始まっており、参加者の幅が広がっている。今後も、イベント参加者などが気軽に参加できる機会を提供してほしい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

昨年は活動自粛の影響で、有料公園利用者数は目標値を大きく下回っていたが、令和4年度は有料公園利用者数、陸上競技の初期備品の減免利用者数、卓球台の利用数が目標値を大幅に上回っている、それはコロナ禍の中でもスポーツを楽しむ意識が高まっている状況にもよるだろうが、さまざまな工夫をこらしながら利用しやすい環境を整え、提供している指定管理者の努力を評価したい。

一方で、無料開放日、利用者数は目標に及ばなかったという現状がある。施設使用のスケジュールによって無料開放日が少なくなることはやむを得ないかもしれないが、屋外でのスポーツの機会を求める利用者に対しては、できるだけ無料開放の実施をアピールして利用者を

増やす情報提供が求められる。

指定管理者によるベンチや看板、小規模な運動器具や照明器具の修繕も自助努力で細やかに対応されている。一方で、アンケートでも軽微な修繕を求める声が寄せられているので、対応を順次進めてほしい。突発的な対応は困難な点もあるが、日頃から整備の点検を更に徹底して予防的な措置を実施していくことも必要であろう。

加えて、アンケートの意見にどのように対応したかというフィードバックをロビーに掲示して、相互のコミュニケーションをとっていることは真摯な対応として評価する。

スポーツ以外のイベント、樹名板づくり、クリスマスミニリースづくりなどのスポーツプラスアルファのワークショップも徐々に始められて、幅広い来園者を増やす試みとして、リピーターが増えているとのことである。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

広報については、公園内の自然（季節折々の花、昆虫、眺望などの変化）やイベントの実施状況に関して、平日はスタッフブログが連日更新されており、タイムリーで細やかな情報発信が行われており評価する。イベント、教室の申込みも WEB 対応となり、ホームページから申込みができるように改善している。

また LINE の登録者も増加傾向にあり、目標値を上回ってきている。さらに、今年に入って、愛鷹広域公園の公式 LINE が刷新され、更新頻度を上げ、より多くの人々がアクセスしやすい情報提供の充実化を目指していることは評価したい。今後、ボランティアの方々にも参加してもらい、SNS などを通じた双方向的な情報提供の場づくりに継続的に取り組んでほしい。

加えて、1月に開催されたオリンピック・アスリートによるクリニックや現役プロ野球選手による野球教室の際には、メディアによって大きく取り上げられて、公園の魅力発信に貢献している。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

令和4年度上期の県委託料を除いた全体の売り上げ実績は2,000万円に迫り、昨年度に比較して、700万円強の増加となっている。これは概ね計画通りの稼働で、計画値280万円のプラスとなっている。その余剰分を指定管理者の自主的な修繕に活用して、上期で126件実施していることは高く評価する。

自主事業の収益としては昨年度よりは増加しているものの、上期の計画値620万円に対して約100万円の減収となっている、これは物販が伸び悩んだことが原因ということである。未成年層がメインとなるイベントの場合、シューズやウェアの調達が少ないという。下期には大規模なイベントも開催しているので、収益は改善していると考えられる。そこで、来年度からは、収入計画を調整して、あしたか鬼ごっこ+オリエンテーリング、プロによるクリニックや教室、長距離記録会ナイトなどのような大規模イベント（夜間も含めた）開催に加えて、スポーツ以

外のイベントの誘致を増やすことによって参加費やケータリング販売などを通じた収益向上にも繋げてもらいたい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9 段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

野球場利用後のグラウンド整備と転圧作業、及びマウンドやバッターボックスのリセット作業は目標を大きく上回り実施され、多目的競技場サッカー特有の損傷箇所の補修及び張替え作業なども週平均 2.3 回（目標値 2.5 回）行われており、積極的に取り組まれている。ただ一方で、繰り返しになるが、アンケートの要望にもあるように、ターフの良好な状態を保つために使用頻度と維持管理とのバランスを取る最善の方法、スケジューリングを検討する必要があるだろう。

また、軽微な修繕に関しては指定管理者の自助努力による長寿命化のための点検並びに修繕や塗装、ユニバーサルデザイン箇所の点検、修繕が目標値を超えて行われており評価したい。突発的な修繕への対応など難しい点もあるが日常的にヒアリングや要望を集めて対応できるシステム（例えば、リクエストボックスなどの設置など）を検討することも有効であると思われる。

安全教育や研修、防災訓練、ユニバーサル度の点検と改修なども計画より多く実施され、安心安全、すべての人々が公平に利用できるように努めており、今後も継続的に行われるように期待する。

4 静岡県富士山こどもの国

● 評価の総括

[9段階評価]

A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナ感染拡大に見舞われた2020年1月以来、感染防止のため、事業の休止・縮小を余儀なくされたが、2022年においては、感染防止策を徹底しつつ、ほぼ平常時の事業内容が実施された。中間実績における利用者数もコロナ以前（令和元年度）の2分の1程度であった昨年度を大きく上回り、コロナ以前の状況に回復している。

季節感のある事業・イベント、雨天であっても楽しめる遊び、日常生活では体験できない農作業やものづくり、動物とのふれあい、自然観察などの体験は、こどもはもとより、年齢に関わらず、自然豊かな環境を活かし、〈五感〉で楽しんでいただける時間を提供できたと言える。

事業の実施にあたっては、多くの団体・機関等と連携し、事業やイベントの企画・運営に努めたことも評価できる。

利用者アンケートも、満足度が4.52と高く、車で来場する子育て世代のリピーターが多いことから、現在実施されている事業の目的は概ね達成されている。

● 改善事項

富士山こどもの国の公園は、富士山麓の雄大な自然の中で、「遊ぶ」「学び」「育む」「交流」できる場として開設され、現在に至っている。

今後は、来場者目標30万人を目指し、「雄大な自然と公園の特性を生かした事業」を時代のニーズに合わせて展開していく必要がある。

これまでの、指定管理者と専門性豊かな地域団体やボランティアとのネットワークを基盤に創出された、多種多様な事業やイベントについては、高く評価したい。今後は、これまで実施した事業やイベントへの参加者の属性を分析し、平日（オン）と休日（オフ）を分けて、来園者とその目的を、より明確に想定した事業の実施を検討・試行されてみてはいかがであろう。

特に、平日について、学校・園、社会教育団体、高齢者団体等との事業連携の検討を図りたい。イベントなどが少ない平日の園内利用にあたっては、自由に散策して自然を楽しんでいただけるサービス（HPで紹介する季節の草花等をまとめたチラシ、主な樹木への名札設置、雰囲気合った案内サイン、一休みベンチなど）も提供できるとよいと思う。

園内案内（パンフレット）の作成にあたっては、〈利用者目線〉に立ち、必要な情報をわかりやすく提供する、より一層の配慮を期待したい。

これまでも課題とされていた、シニアや車での来場手段がない層について、最寄り駅もしくは集合場所までの送迎（有料）もサービスの一環とした事業の組み立てを検討されたい。

また、オンシーズンは、宿泊施設をもつ強みを活かした事業展開についても、専門性の高い団体との協働で検討を進められたい。

● 機能別の評価

A 自然を活かした多様な遊び、夢や冒険心を育む遊び場の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナ感染症対策に配慮しながら、プログラムの利用制限の緩和やイベントの利用人数の拡大を行った。プレイリーダーの育成や、新規事業・イベントの実施、水遊び広場など従来事業の再開、里山教室の新体験コース実施など事業の充実を図った。

こどもホールの遊び道具のレンタル制開始、MTBの台数を追加、キャッシュレスサービスの導入など利用者の利便性の向上に努めた。

季節感を大切に四季折々の自然観察会や体験イベント、公園の特性を活かしたディスクゴルフ講習会や各種スポーツ大会の実施など、多くの参加者の利用があった。

グランピングの実施はなかった。今後、実施に向けての検討にあたっては、宿泊施設を有することを強みとして活かす、公園の魅力アップという面も含めて、検討されるとよいのではないかと考える。

B 生命の尊さや自然の豊かさを学ぶ場の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

自然観察会や里山教室、はるかひまわりプロジェクト、ホタルの繁殖展示、地球環境史ミュージアムの出前博物館（展示）等为目标通り実施。動物広場での動物とのふれあい・体験なども、保育園・幼稚園の団体利用を含め、多くの利用者があった。

C 地域や利用者の方々が交流できる場の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

親子向けにディスクゴルフ講習会、シニア向けにノルディックウォーキング教室を月一回開催し、園内の植物や昆虫の自然観察会も実施した。また、高校生から実業団の陸上部向けのクロスカントリーコースのトレーニング利用やランニングイベントの実施など、多世代にわたる、利用や交流を推進する場を提供した。

D 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ボランティア・地域人材の参加については、目標の2倍以上の実績となり、多種多様な団体と協力した事業の実施、プログラムの提供がなされた。

また、県内外からの小中高等学校・幼稚園・保育園の行事利用の誘致も進んでいる。利用してみての感想・ニーズも丁寧にリサーチし、レポートに繋げたい。

今後は、参加者数や年齢層の分析を行い、効果的な実施時期や方法、広報手段を研究されることにより、来園者増に繋げていく可能性があるのではないかと。

E 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

利用者のニーズに合った利用時間の設定については、GW・お盆・秋の三連休の中日などに、臨機応変に対応した。また、キャッシュレス決済についても一部導入を開始した。

施設の改修は目標値に達していないが、案内看板等は計画数を設置した。

定期アンケートは、計画通り実施し、夏休みの水遊び広場の再開、カラーリング体験会や雨の日のイベントの実施などに取り組んだ。利用者団体等との打ち合わせは、感染症対策を徹底した安心安全なイベントの実施のためであり、目標値を大きく上回っている。

トイレについての改善は、レジャー施設の利用満足度に繋がる大きな要素である。洋式化・ウォシュレット設置を含め、トイレ環境の整備は、優先的に取り組まれない。

F 公園の魅力の広報

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

マスコミへのプレス、ウェブメディア、Web 広告や新聞広告による情報発信に積極的に取り組んだ。今後、利用者側が来園する目的、情報源としているツール、必要としている情報内容等、分析検討し、的を得た有効な情報発信の充実を期待する。

園内の案内パンフレットは、情報量が多すぎる上に文字も小さくて、(特に高齢者には)必要な情報が見つけにくい。「来園を誘う目的で作るパンフレット」と「来園した方に分かりやすく園内の情報を伝えるパンフレット」は、役割を明確にし、利用者の気持ちに沿って情報を取捨選択するなど、分かりやすさを大切に編集が必要と考える。

G 収益向上への取組

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

感染症対策を実施しつつ、アウトドア宿泊施設の利用件数は中間目標を大きく上回り、昨年度中間実績と比べても収益は向上している。レストランのメニューも季節限定・地場産品を取り入れ、デザートも工夫を凝らした。

今後は、利用者層のニーズを研究し、見た目・材料の由来・ボリュームなど、さらなる魅力アップに取り組まれない。売店で扱う品物については、常設店であることを活かして、アーティスト作品・地元産品・マルシェ関連商品の期間限定販売等、立ち寄って楽しめる店舗空間づくりも検討されるとよいと考える。

H 安全・安心で快適な施設の提供

〔9段階評価〕 A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

施設・設備ともに経年劣化が激しいため、日常点検・定期点検で異常箇所を早期に発見し、特に耐用年数が経過している施設・設備については、できる限り交換・補修することで、安全確保に努めている。ユニバーサルデザインについても、スロープカーが更新され（2022年3月）、サイン等の修繕・ベンチの新規設置といった維持管理を実施した。新型コロナウイルス感染防止対策については、適切に実施された。

今後も、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設・整備の長寿命化を図りつつ、公園緑地課と協議を行い、必要な措置を講じられたい。

5 小笠山総合運動公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染が続くなか、不特定多数の来場がある「グルメスタジアム」「こどもみらいプロジェクト」などが令和4年度も実施できないという制約の中、公園利用者は中間目標65万人に対して、実績48万855人、達成率約74%であり、前年度比でも約160%増と回復基調にある。

事前に参加者が確定できるイベントの取り組みが進み、令和元年度以来、久しぶりに「全国学生フォーミュラ大会」が開催されている。以前を上回る入場者数であり、期待の大きさがうかがえる。また小規模イベントの開催は継続され、ラグビーなどの「スポーツ教室」や「ツリークライミング」体験会などが企画されている。「ウィズコロナ」に向けて、過去の経験を生かした取り組みを行う姿勢は高く評価できる。

その結果、1次評価（中間実績）の数値は、令和3年度の3.0に対して令和4年度は3.5までと大きく上昇している。令和元年度並み（3.6）に回復することを大いに期待したい。

● 改善事項

令和3年度では、オウンドメディア戦略の弱さを指摘したが、令和4年度では、例えば、袋井市と連携しエコパスタジアムで撮影された観光PR動画がSNSなどで発信され、強化がなされている。こうした自治体との連携に関して、もう1歩踏み込み収入増を図る施策まで広げることが期待したい。後述しているが、県内はもとより県外へも認知度を高め、利用者増を果たすためにも、ふるさと納税の返礼品対象となることも1つである。

また、こうした認知度の向上には県内メディアとのより一層の連携も必要である。例えば県内テレビ局が製作する番組での収録会場へのオファーもその1つである。

新たな顧客作りとして地域密着の向上については、小中学校生に加えて、令和4年度より導入された、高校での「総合的な探究の時間」との連携も期待したい。

● 機能別の評価

A 県の頂点となる大会の開催（国際大会、全国大会、県大会等）

[9段階評価] **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

ラグビーに関して、リーグワンの公式戦をはじめ、アマチュアの強豪校の対抗戦の開催などで徐々にプレゼンスを発揮し、8月には女子ラグビー日本代表のテストマッチの開催へと達している。

また新型コロナウイルス感染が続いているが、「全国高校サッカー選手権大会 決勝戦」の観客数が約1万1000人と令和元年度の約1万4000人に相当するレベルまで戻るなど、今後の「ウィズコロナ」に向けての対応がなされつつある。

サッカーに関しては、J2ではあるものの令和5年度は磐田・清水・藤枝と3チームによるダービー開催など、更なる大きな役割が期待される。

B 地域利用・多目的利用の推進

〔9段階評価〕 A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

令和3年度は、新型コロナウイルス感染のなかでの活用として、ワクチン接種会場や地元企業の臨時駐車場といった利用があったが、令和4年度はそうした特殊要件は無かった。

しかしながら、スタジアムについては、新型コロナウイルス感染のなかでの新たな試みとしてスタートした浜松市内の中学校による「校内体育大会」が今年も開催され、定例化しつつある。こうした地域の児童・生徒による利用では、県中部・東部小学校の修学旅行のプランの一部としての「スタジアム見学ツアー」も実施されるなど、大きな役割を果たしている。

ビオトープ周辺では幼稚園の親子遠足に活用されていることから、今後は環境学習といった視点から小中学校に対してスタジアム以外の利用促進を期待したい。

C 地域・企業との連携・協働

〔9段階評価〕 **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

令和4年度の「全国学生フォーミュラ大会」は海外からの参加が無く、やや国際性に欠けたものの無事に開催でき、令和元年度の約2万2600人を上回る約2万7800人を動員するなど、「行政・教育機関・民間・施設等との連携」の蓄積が発揮されていることは大いに評価ができる。

スタジアムでのイベントが徐々に戻りつつあることもあり、ボランティア活動ではエコパサポーターズが中間目標延べ90人に対して実績117人と大きく上回っている。あわせて、「花壇整備・樹木管理等」では中間目標延べ人数75人に対して実績160人、「森林・園地補修整備等」では中間目標延べ人数125人に対して実績304人と大きく目標を上回っている。

こうしたエコパへの関心の高まりを好機と捉え、今後は以前行っていた地元企業への営業活動の再開を期待したい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

〔9段階評価〕 **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

優勝経験のある2か国と同じグループに入りグループステージ突破が危ぶまれたFIFAワールドカップにおいて、パブリックビューイングを実施するにあたり、初戦のドイツ戦が対象試合となった（結果は2-1と逆転勝利）。県民の日本代表への応援ニーズを的確に捉え、最善の試合選択を行ったことがスタジアム利用に対して功を奏したと言える。

こうした利用者ニーズに関して定例のアンケート調査では、積極的に新規利用者や若い年代（令和3年度では19～29歳が約22%に対して令和4年度では約31%）の声を求めた結果、全体満足度の向上が得られた（令和3年度4.48に対して令和4年度4.49）。

一方、既存利用者のニーズからは、多目的運動広場での芝や水はけの改善を求める声が散見された。これは地質上、相当程度の費用が必要であり、指定管理者単独での改善は非常に難しい。今後は県と協議し、どの程度まで対応していくかを見極めていく必要があると思われる。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

令和3年度も増加傾向にあったが、ホームページへのアクセス数が月平均51万（対前年度比+292%）、SNSの活用回数が55回（対前年度比+34%）と順調に伸長しており、オウンドメディア戦略の一端を担える形になりつつある。

またマスメディアでの訴求では、中古車販売大手メーカーのCM撮影場所やテレビ（キー局）のスポーツ番組の会場として利用されており、県内のみならず全国的な知名度の向上に寄与している。

一方で、県内テレビ局とのより一層の連携が求められる。例えば、エコパの関係者が出演する番組の撮影場所に利用してもらい、スポーツイベントやコンサート以外の魅力を改めて県民へ訴求することが望まれる。

F 収益向上への取組

[9段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

令和4年度も令和3年度に引き続き新型コロナウイルス対策で事務費が中間計画に対して約470万円増加した。また、時間外労働の減少に伴う人件費の低下などがあったとしても支出が全体として中間計画比で約1,540万円増加し、収支差は計画比で約570万円の赤字となっている。今後、ウクライナ情勢に伴う光熱費などの上昇により、更に赤字額が増加する可能性がある。

こうしたなかではコスト削減にも限界があり、収入増を図るための施策が必要である。2日間で来場が8万人規模の「エコパグルメスタジアム」（5月）など、従来は会場を囲い込み、入場者をチェックすることが困難であったため、自主事業イベントが実施できていなかった。しかしながら、事前の参加名簿作成が可能な「ツリークライミング」体験会とフリーマーケットの併催を試みるなど、小規模ではあるが少しずつ再開を進めている。

更に収入増を図るためには、例えば沼津市が「INN THE PARK」の親子宿泊券を返礼品にしたように、何らかの形でふるさと納税の活用が期待される。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

静岡県では9月の台風15号により各地で住宅への浸水や断水など大きな被害にあっている。エコパアリーナで当日行われたコンサートでは約6,000人の観客の内、JR東海道新幹線・東海道本線の運行休止により約1,000人が帰宅困難となった。そこで、コンサート主催者と協力し、サブアリーナを開放し帰宅困難者の受け入れを行った。

これは、毎年異なる業務を分担するなど工夫して実施している防災訓練などで蓄積されたノウハウが発揮されたと言える。

令和3年度は中止となってしまった「総合防災訓練」も再開されており、更なる強化を期待したい。

また利用者からはAEDやポイズンリムーバーの設置に対して評価を得ている。非常時のみならず、日頃の利用に対しても、安全・安心の強化を期待したい。

6 吉田公園

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルスの感染状況は、当初の予想を超え3年目と長期化しており、未だ終息の兆しが見えない。ただ、ワクチン接種が進みコロナウイルスへの不安感も和らぎ、感染予防対策の緩和もあり、社会活動も正常な状態に戻りつつある。5月には新型コロナウイルスの感染法上の取扱いが「2類」から「5類」に変更される予定であり、イベント等の開催も制約がなくなってくる。しかし、一度冷え込んだ消費者マインドはすぐにコロナ以前に戻るとは限らない。吉田公園の魅力の積極的なPRとともに、来園者のニーズをとらえたイベント等の開催を従来以上に進めていく必要がある。

令和2年度11万人、令和3年度13万5千人と推移した年間の来園者数は、大型イベントを復活した令和4年度は更なる回復が見込まれるが、次年度以降できるだけ早くコロナ以前の20万人台を達成できるよう頑張ってください。

現地視察を行った限りでは、施設の管理上大きな問題点は見当たらず、丁寧に管理されているといった印象を受けたが、アンケート結果を見ると「屋外・建物内・トイレの清掃」「樹木・花壇・芝生の管理」いずれの項目でもここ数年のポイントを下回っていることは真摯に受け止めて欲しい。

アサギマダラやビオトープ池のカイツブリのバトルなど興味深い話もヒアリングさせてもらい公園のポテンシャルの高さを感じた。公園の見どころとして一層のPRを期待したい。

● 改善事項

従来から改善事項として挙げられていた「喫茶サービスの充実」「ボランティアの高齢化問題」については、アンケート結果や参加者数から見て道半ばという印象を受ける。

喫茶サービスの充実に関しては、店舗の問題というより周知方法に問題がある可能性がある。ボランティアに関しては、モチベーション向上と若い人が参加しやすい雰囲気づくりも重要だと思う。

新たな改善事項として「売上向上と財務内容の改善」を挙げる。現在の財務状況は、コロナウイルス感染症の影響による公園利活用・施設利用事業収益の落ち込みを助成金等で補填して黒字化しており、助成金等を除くと令和元年度・2年度と200万円程連続で赤字となっている。令和3年度は、委託費の見直しにより黒字回復したものの依然厳しい状況にある。

令和4年度は、各種イベント等も再開しており収益は回復基調にあると思われるが、コロナウイルスに対する行動制限の緩和等を踏まえると、平成29年度の公園利活用事業収益650万円・施設利用収益300万円を目標に売り上げ回復を図り、財務内容を改善することが急務だと感じる。

● 機能別の評価

A 花や緑に親しむ機会の提供

〔9段階評価〕

A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

公園の本来の設置目的である「花や緑に親しむ機会の提供」については、アンケート結果では公園内が綺麗に管理されている、芝生の状態がよいとの声が多く聞かれ、施設管理者の努力がうかがえる。

樹木・植え込み・芝生等の管理を一部、造園業者に委託しているが、現状業務委託エリアと直営エリアの明確化による適正な維持管理が行われているようなので、空白部分が生じないよう引き続き委託先と連絡を密に業務を執り行っていただきたい。

園内の各エリアの特色を生かした緑地空間の提供という面では、「アサギマダラのふるさとゾーン」をより身近で観察できるよう整備するなど工夫がなされてる点も評価したい。

また、アサギマダラの成虫を呼び寄せるフジバカマに加え、幼虫の食草であるキジョランを植え、産卵・孵化にも取り組み始めた。これにより蝶の北上・南下の時期以外にも楽しめるようになるかもしれない。SNSなどを使い、ストーリー性をもった説明によりPRを図り、公園の目玉の一つとして欲しい。

一方でアンケートで、園内の花や木の名前を知りたいという声が多く聞かれるため、名札や立て札で分かりやすく表示することが望まれる。

イベントについては、令和3年度に始めた“たねダンゴ植栽”も好評のようであり、花壇コンクールも定着しているがマンネリ化とならないよう、一工夫加えた展開を期待したい。

B 地域住民の利用促進

〔9段階評価〕

A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

他団体のイベント誘致に関しては、コロナのため2年間中止されていた「吉田町みどりのオアシスマつり」（約800人集客）を4月に、野外音楽イベント「頂」（延9,600人集客）を6月に開催した。10月には、キャンプイベント「吉田野営」を開催し、491人のキャンパーが参加している。キャンプブームを背景に時機を得た企画だと感じた。

自主イベントとしても「お月見コンサート」「ハッピーハロウィン」「かかしづくり」なども企画し、積極的に取り組んでいる。

小規模イベントの誘致も上半期の目標を達成している。

来園者数増加も重要ではあるが、単に人を集めるということだけでなく、「花や緑に親しみながら」という公園本来の設置目的に立ち返り、各イベントを公園の魅力でPRするよい機会ととらえ取り組んでいただきたい。

C 地域との連携・協働

〔9段階評価〕

A⁺ A **A⁻** B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

地域との連携において、会員とボランティアの協働のもと魅力ある公園づくりを進めていくというコンセプトから、ボランティアの参加者の増加は重要な課題と考える。上半期は参加者200名以上という目標は達成しているが、前年度上半期の400名という実績には及ばない。ボランティアのポイント制はよいと思うが、参加率の高いボランティアに感謝状や記念品を贈呈するなど、よりモチベーションが高まる工夫を考えて欲しいと思う。ボランティアの高齢化については若い方へのPR方法と共に若い人が参加しやすい雰囲気作りも大切だと思う。

幼稚園・学校・福祉施設の遠足、特別支援学校の作業体験などは積極的に行われており、十分な連携が図れていると思う。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

施設・設備の充実、改善については、園内看板は各所の見どころ等公園の魅力を伝える工夫がなされている。ただ一方で、アンケートで花や木の名前を示す立札や名札の充実を望む声が多く聞かれることから、対応をお願いしたい。

池の汚れを指摘する声も多く、公園の雰囲気は損なっていると感じる。手入れ次第では公園の魅力を高めるスポットとなりえるので早急な整備が望まれる。

ベンチや遊具の数が少ないとの指摘も多く、ファミリー層の誘客を図るのであれば一考する必要がある。

喫茶サービスの向上については、昨年から新たに「シダベジカフェ」がオープンした。アンケートでは、喫茶店のサービスに対する満足度は低いが、採算性を考えると現在の土日祝日のみの営業はやむを得ないと思う。季節限定メニュー（芋メニュー等）など魅力のあるメニューも用意されている。ただ、店舗の場所が目立たないところにあり、来園者に認知されていない可能性があるため、芝生公園側にその時期の押しのメニューを表示した立て看板を置いたり、園内放送するなど来園者への周知により力を入れていただきたい。

アンケートでは、職員の対応が高評価である一方で、樹木・花壇・芝生の管理についてやや評価が低下している点が気になる点ではある。

公園管理者側の責任に帰すべきクレームは特になかったが、来園者のマナー（犬のリードが長い、園内でのサッカー、自転車走行等）については不快に感じる来園者がいる以上、一定のルール付け・注意喚起の必要がある。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ A A⁻ **B⁺** B B⁻ C⁺ C C⁻

イベント情報、花情報等のマスコミへの提供については10件の中間目標に対し11件（テレビ8回・新聞2回・GOTO掲載1回）とおおむね達成されている。件数も重要ではあるが提供する情報の内容も来園者のニーズをとらえ、より興味を引く内容となるよう工夫していただきたい。

ホームページやブログ、インスタグラムなども積極的に活用しているが、こちらも同様にマナー化しないよう来園者のニーズや時流に合った情報をタイムリーに提供するよう心掛けて欲しい。

また、SNSによる情報発信は、自らが発信するというより来園者にインスタグラム等を通じて情報発信してもらう方が効果的であることから、園内にインスタ映えスポットを設け紹介するなどの仕掛けを行うのも一つの方法だと思う。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ **B** B⁻ C⁺ C C⁻

コロナ以前は9,000千円程あった公園利活用・施設利用事業収入はコロナウイルスによるイベント中止・縮小により大幅に落ち込んでしまった。令和3年度から、やや回復の兆しが表れ、

今年度は各種イベントの復活もあり、更なる回復が期待される。

自販機売上も、安定的に年間2,000千円以上を計上しており収益の大きな柱となっている。一方で、電力料金の高騰等コスト高による収益悪化も懸念される。

コロナ終息後もすべてがコロナ以前に戻るとは限らないので、アフターコロナを見据えて新たな取り組みを模索して欲しい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価]

A⁺

A

A⁻

B⁺

B

B⁻

C⁺

C

C⁻

安心・安全を優先した施設の維持管理、長寿命化の観点からの維持補修については、ベンチ等も必要な補修が施されており、遊具についても目立った破損はないように感じた。柵の一部に破損が見られたが、修理する予定であるとの説明を受けた。自然の中の公園なので、やむを得ない点ではあるが、遊具付近に蜂が多く飛んでおり、小さな子供は怖がるのではと感じたので、可能なら駆除も検討していただきたい。

また、腐って倒木の危険のある樹木を数本伐採するなど、樹木の状態にも気を配って管理に努めている。風が強い日もあるようなので、倒木や折れた枝の落下等による事故の危険を回避するために継続してチェックをお願いしたい。

車椅子の貸し出しは好評のようで、高齢者や障害者に配慮した姿勢がうかがえる。車椅子での事故が起きないようにメンテナンスを徹底するとともに車椅子で移動しやすい環境整備も図って欲しい。

海岸から近い立地であるため震災時の津波などを不安視する方も多いと思うので、津波避難場所（命山）の安全性や避難経路等をPRし、来場者に安心感を与えて欲しい。

7 浜名湖ガーデンパーク

● 評価の総括

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

新型コロナウイルス感染症対策は継続中ではあるものの、行動制限が緩和されたことから、今年度は自主イベントや持込イベントが増加した。総来場者数はコロナ前の令和元年度レベルまでほぼ回復傾向にあり、明るい兆しがでた1年となった。コロナ禍での経験を活かしながら、指定管理者が新しい自主イベントや地域の各所との連携に取り組んでいることを評価する。

集客のための告知は、指定管理者のケイパビリティをうまく活用しており、地域全体に集客するイベントと連動して効果的に行われたことも評価できる。

春秋のアンケートによる利用者満足度は4.46と目標の4.5にはあと一歩のところにとどまったが、全体として花への満足度は非常に高い。今年度は上期の新規来場者が増加傾向にあり、リピーターだけでなく、初めての方に誰にでも「優しく」「楽しめる」よう、引き続きニーズの把握と改善に努めてほしい。

来年2024年は2004年の博覧会から20年目にあたり、20周年イベントが予定されており、また2023年度はプレイベントで来場者の増加が想定される。イベント開催に伴い、これまで対応できなかった老朽化施設の改修が進むように県と連携していただきたい。

20周年イベントでは、現在から将来に向けた「人・自然・地域・技術」などがテーマになり展開されることになるが、一過性のお祭りではなく、終了後には今まで以上に魅力的で来場者に憩いや安らぎを提供できる公園になることを期待したい。

● 改善事項

機能別評価で触れている通り、以下3点を検討いただきたい。

- ・本公園を支える重要な役割を果たすボランティアの積極的な募集の継続
- ・ボランティアの意向を踏まえた交流会の開催
- ・イベント内容について告知方法の見直し

● 機能別の評価

A 憩いの場として、多彩な花・緑との出会いの場を提供

[9段階評価] **A⁺** A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

アンケート結果によると、本公園の一番の魅力である花・樹木の行き届いた管理への評価は高く、指定管理者は開設から18年経過した現在も景観維持のために日々努力されていることを高く評価したい。最も人気のある「花の美術館」の来場者が昨年より約3千人多い98,000人程度まで戻ってきていることに加え、体験教室、自主イベント、植物の展示会、即売会、花をテーマにした景観イベントの開催等すべてにおいて昨年度を上回る来場者数・開催回数となっており、中には、中間段階で年間目標を達成したものもある。特に、自主イベント企画において単なる集客ネタではなく、「花」をテーマとしたものに集中選択し、新規イベント（はな

のわマルシェ)を企画実施した。来場者ニーズに沿った「花の即売」や「花をモチーフとしたアクセサリー等の販売」などの出店により盛況であったため、引き続き、自主イベント企画への積極的な取り組みをお願いしたい。

アンケートでも「花のガイドツアー」への期待が寄せられていることから、来年度以降も花の魅力が伝わるようなツアーの提案を期待する。

B 多様なレクリエーションの場の提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

行動制限緩和に伴い、各種発表会、コンサート、式典への施設貸出、文化・健康プログラムいずれも開催数が増え、屋外ステージは下期修復工事のため使用できない期間があるものの、中間段階で年間目標を大きく上回っており、コロナ前同様、本来の役割を果たしていることを高く評価する。環境学習プログラムについても目標以上に取り組んでいただいているが、浜名湖の自然を次世代に継承していくために、水辺保全の観点での環境学習の機会を子供たちに提供できるよう今後も誘致していくことを期待したい。

C 地域との連携・協働

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

今年度は、本公園を支えるボランティア活動、周辺の教育機関や施設等の地域との連携について、目標を上回る成果を達成した。高齢化の影響でボランティア数は新規入会者より退会者が上回りトータル人数は減少したが、稼働(述べ参加人数)は昨年を上回る結果となった。既存ボランティアや周辺大学からの紹介、ふれあい花壇について6件の周辺企業の新規登録があったことなど、地域との連携が進んでいる。また、今年度は新たに静岡大学の大学生と協働イベントの企画・開催に取り組んでおり、今後も積極的に地元の協力を得て取り組んでいくことを期待する。ボランティアについては、引き続き広く募集する方法の検討と、中断しているボランティア同士の交流イベントの再開、発表会等、普段の活動以外にモチベーション高く参加してもらえる機会を探っていただきたい。

D 利用者ニーズを踏まえたサービスの提供

[9段階評価] A⁺ A A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

年2回実施するアンケートでは花の管理状態、コロナ対策などに対して好意的な意見が多く寄せられ、基本的には、行き届いた管理が行われている。

例年要望として多い「飲食」については、今年度キッチンカー1台を増設し、来場者の要望に答えているが、来期はコンテナ出店を増やせるよう尽力していただきたい。

シニア向け要望の「交通手段」については、「ファミリー自転車」「ロードトレイン」はどちらかと言うと若いファミリー向けであり、車いすを使うような歩行困難者ではない「シニア・高齢者」のニーズを満たせるものではなく、現状は、花の美術館まで移動できる「ガーデンクルーズ」が唯一の手段になる。新規来場者の増加が見込まれるなか、シニア向けの園内移動方法としてこれをもっと積極的にアピールしてもよいのではないか。

物販に対する要望は、今年度新規開催した「マルシェ」が来期定着して、ニーズに応えられ

るイベントに成長することを期待したい。

なお、飲食同様に要望の多い「花ラベル」は、公園内の膨大な種類の草花全部に常時ラベルをつけておくことは現実的には難しいため、これまで通り付替え作業は継続しつつ、20周年記念イベントでの「デジタル」導入により改善が図られることを期待したい。

E 公園の魅力の広報

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

パンフレット等の印刷媒体とホームページ・SNSといったデジタルメディアを、それぞれの特徴を活かして公園の魅力を発信し、特にデジタルメディアのアクセス数、いいね！数は昨年度を上回る結果となった。ビジュアル訴求が効果的なSNS「Instagram」は、本公園の一番のアピールポイントである「フラワーガーデン」「花」「樹木」の魅力を発信するのに最も相性がよいメディアであり、3年前から比べても1つの投稿に対する反応（いいね！数）は確実に増加し、魅力の発信に貢献していると考えられる。

また、今年度は「ボランティア」や「食」（新たに商品開発した花のデザート）といった「花」以外の魅力の発信にSNSで挑戦したことや、印刷物では、自家用車で来場者に注目しNEXCO中日本と提携しそのネットワークを活用して告知パンフレットを配布したことも来場者拡大に繋がる試みとして評価できる。

来年度への課題としては、飲食マップの完成と、さらに増えることが予想されるイベント情報の分かりやすい告知方法の検討を挙げたい。広大な公園内に点在するカフェ・飲食箇所がそれぞれの内容（メニュー概要・セールスポイント）を一覧できるパンフレットは、来場者にとって利便性向上に繋がる。一方、イベント情報は、ホームページ以外に各種SNSでの詳しい内容の発信と、情報拡散できる提携先の検討を期待する。

F 収益向上への取組

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

展望台の入場制限は引き続き行っているものの、全体的な来場者の増加や、有料自主プログラムへの参加者、出店者の増加に伴い、昨年度に比べると収益は上向きとなった。アンケートで期待の高い「食」や「物販」対策として、地元の食や物産に注目して、出店者を募集したことも貢献していると考えられる。今後、物価上昇による運搬費等経費の上昇は懸念事項であるが、コスト削減に取り組んでいただいております、引き続き、収益向上に努め、来場者の期待に届けることを期待したい。

G 安全・安心で快適な施設の提供

[9段階評価] A⁺ **A** A⁻ B⁺ B B⁻ C⁺ C C⁻

誰もが安心して利用できる安全な公園を提供することが使命であり、日頃からの点検、マニュアルの整備、スタッフの研修の実施等を確実に遂行し、今年度も「事故ゼロ」を達成した点を評価する。

来場者数が回復傾向にあり、新規来場者数の割合が増加していることから、園内交通の利用促進や、シニア向けの移動手段、新規大型イベントでの臨時バスの活用等、「誰にでも優しい

公園」として広く多様な来場者に対応できるよう、改善の余地を探ってもらいたい。

懸案である老朽化設備への対応は、20周年記念イベントでの改修を期待し、指定管理者は運営面で、引き続き事故防止と快適な環境のための維持管理に取り組んでいただきたい。